

2015-10-29(木)

■図書館での新刊本貸し出しを考える

報道によると「大手出版社や作家らが、発売から一定期間、新刊本の貸し出しをやめるよう求める動きがある」そうです。求める相手は公立図書館。理由は、図書館が無料で貸し出しをしているため新刊本が売れなくなっている、です。ついにというか、そんな～というか、感じ方はそれぞれだと思いますが、私の中では「それはそうかもね」と肯く部分が大きいです。

学生時代は「本」(活字)が大好きで、自由になるお金は殆どと言っていくらい本の購入に充てていました。本屋さんをうろうろし、新刊本を購入するのが大好きだったので当然「積ん読」だけの本も沢山ありました。現在は老化した視力の問題もあり以前ほど本を読まなくなりましたし、「重い新刊本より文庫本」の世界に入っていますが、それでも本(電子書籍ではなく)がない生活は考えられないのです。

時々「本は図書館で借りればいいのよ。人気本は予約すれば購入数を増やしてくれるし、自分で買う必要はないよ」と言う人に会います。内容のすばらしさや、取材の大変さを充分把握していながらも、その本を自分では買わないと言います。でも、好きな作家にはこの先も書き続けて欲しいし、本を買うことはその作家を応援することになると考えます。全部を購入すべきとは言いませんが、必要なものにお金を払うことは当然でしょう。

図書館は膨大な文献もあり調べ物をするときなどとても役に立ってくれますが、残念ながら私には受験勉強の場所的イメージがあり、日頃はあまり仲良く出来ていません。

冒頭の議論はこれから大きくなっていく問題だと思いますが、グリコン的にはどう考えたらいいのでしょうか？

(於弥木)